

家族・親族に頼るといふこと

前回は「なぜ家族がいなくて困るのか？」ということをお伝えしました。そこで今回は、もし読者の皆様が、ご自身よりもひと世代下のご家族・ご親族（お子様、甥御様・姪御様など）を頼りにしようとするとき、一度は考えていただきたいことをお伝えします。

最近の若い人たちって、本当に大変だと思います。

まず、大学に通うために奨学金を借りていて、大学卒業と同時に数百万円の借金を抱えている人が多い。そして、安定していて更に年数とともに昇給していく給料が貰える仕事に就くことが、至難の業です。

だとすると、結婚しても共働きは当たり前。自分自身が親にしてもらった教育レベル以上を、自分の子どもにも受けさせてやりたいと思えば、教育費の負担は幼少期からかなりのものにならざるを得ません。

そんな不安から、子どもを持つこと自体に積極的になれなかったり、結婚自体を躊躇したりする若者も多いそうです。

給料もあがらない、金利もあがらない、上がるのは消費税と教育費負担ばかり。

中には、株式や仮想通貨への投資や、起業による成功で若くして財を成している人もいますが、大部分の若い人たちは、「働けど働けど、我が暮らし楽にならず」と少なからず感じているのではないのでしょうか。

つまり、最近の若い人たちは皆、物理的に忙しい上に金銭的にも余裕がないという人が多いのです。

これから高齢期を迎える読者の皆様は、ご自分に何かあったときに頼りにしようとするご家族ご親族を頭に思い浮かべてみてください。そして彼らが、普段どんな生活をしているのかを想像してみてください。普段から彼らとどのようなコミュニケーションを取っているのか、彼らが皆様のことをどれだけ知っているのかについても、よく検討してみてください。

皆様ご自身が急な病気で救急搬送されたとして、病院に駆け付けてもらわなければならず、手術や治療の説明や承諾、その後の療養先の手配や介護保険の申請など、ご家族・ご親族に求められる仕事は次々と容赦なく襲ってきます。

気持ちの上では、もちろん出来る限りのお世話をしたいと思ってくれているご家族・ご親族だとしても、仕事の都合や子育ての都合により、思いのほか過度な負担を強いることになるかもしれません。

万が一のときのご家族・ご親族の負担を軽減してあげる方法、もしくは全面的にお願いするとしたらそれに見合う金銭的見返りを準備しておく方法など、今、読者の皆様がお元氣なうちに考えておくべきなのかもしれません。